

「持続的な磯焼け対策の実践に向けて」

場 所: 東京海洋大学 楽水会館 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 TEL03-5463-0400(代表)

日 時: 2009年9月28日(月) 10時00分～17時30分

主 催: 日本水産工学会

共 催: (独)水産総合研究センター水産工学研究所, (社)水産土木建設技術センター, (社)全国豊かな海づくり推進協会, 東京海洋大学, 水産庁

参加方法: 参加費は1000円です。また、シンポ終了後、1000円で懇親会を開きます。所属団体名、氏名、を記入し、下記にある桑原(水産工学研究所)までメールまたはFAXでお知らせ下さい。

開催趣旨: 水産庁は、平成19年に「磯焼け対策ガイドライン」を示し、その後「岩礁域における大規模磯焼け対策促進事業」により、漁業者が中心となった磯焼け対策に技術サポートを展開しています。その成果は、ヘクタール単位の藻場回復、そしてそれに伴う地域の活性化として全国各地で表れています。

本シンポジウムでは、まず、現在各地で実践中の藻場回復の取り組みを紹介します。次に、植食動物の有効利用に関する新たな試みを紹介します。さらに、総合討論では、地域の人材や風土を活かし、効果・効率的に、そして持続的に磯焼け対策を実践するためには、何を、どのように進めればよいのか、平成21年度からスタートした「環境・生態系支援活動」制度を踏まえた話し合いを行います。



プログラム

基調講演 10:25-10:50
技づくり・人づくり・流れづくり 東京海洋大学 藤田大介

植食動物の除去による藻場回復の実践:その1 10:50-12:00
青森県での取り組み 青森県産業技術センター 桐原慎二
宮城県女川での取り組み 漁港漁場漁村技術研究所 大村浩之
静岡県伊豆での取り組み 静岡県水産研究所 高木康次
高知県での取り組み 高知県水産試験場 田井野清也

昼食 12:00～
ポスター発表 12:00～13:30

植食動物の除去による藻場回復の実践:その2 13:30-14:40
大分県名護屋での取り組み 水産土木建設技術センター 安藤 亘
長崎県大瀬戸での取り組み オフィスMOBA 中嶋 泰
長崎県新三重での取り組み ペントス 南里海児
鹿児島水産高校における取り組み 鹿児島県 田中敏博

流通・利用の新たな試み 14:40-16:05
南日本における最近の植食動物の利用実態 海中景観研究所 新井章吾
ガンガゼの市場流通 中央水産研究所 宮田 勉
ガンガゼの食品利用の拡大に向けて 東京海洋大学 大迫一史
イズミの食品利用の拡大に向けて 鹿児島純心女子大学 森中房枝

対策を支援する制度 16:05-16:20
「環境・生態系支援」について 水産庁 楠 富寿夫

総合討論 16:20-17:25
テーマ: 持続的な磯焼け対策の実践に向けて 司会: 桑原久実

お問い合わせ先: (独)水産総合研究センター水産工学研究所 桑原久実

tel.0479-44-5935 fax.0479-44-1875 e-mail:kwhr@fra.affrc.go.jp (@の両隣の空欄は削除ください)